

横田基地における人員降下訓練の実施について（口頭要請）

- これまで再三にわたって、訓練情報の早期提供を求めているにもかかわらず、訓練開始当日の情報提供であった。訓練当日の情報提供では、周辺住民への周知が十分に行えないことから、周辺住民への不安軽減のため、訓練情報の早期提供を徹底すること。
- 現在、日本国内では新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が发出されており、都民が緊急事態措置の実施下にあることから、航空機の飛行等による騒音の発生について最大限の配慮をすること。
- 市街地上空での低空・旋回飛行訓練は行わないこと。また、CV-22オスプレイは昨年発生した部品の落下や、特有の騒音等によって周辺住民に与える不安が大きいことを踏まえ、最大限の配慮をすること。
- 訓練従事者に対して、安全の重要性を認識させるとともに、基地外に影響を及ぼさないよう、安全対策に万全を期すこと。特に、使用する航空機及びパラシュート、装備品等の使用器材等の安全確認は徹底して行うこと。
- 必要最小限の機数及び人員での訓練を実施すること。

令和3年6月14日

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官

アンドリュー J. キャンベル 大佐 殿

横田基地周辺市町基地対策連絡会構成市町長

立川市長	清水	庄平
昭島市長	臼井	伸介
福生市長	加藤	育男
武蔵村山市長	山崎	泰大
羽村市長	橋本	弘山
瑞穂町長	杉浦	裕之

幹事 武蔵村山市長 山崎 泰大